

斐太北小 ESDだより

Education for Sustainable Development(持続可能な社会の創り手を育む教育)

前期 ESDの振り返り



ESDを通して斐太北小学校の子どもたちが目指す姿

身のまわりで大切にしたいこと

- ・みんなががってもよい いろいろある
- ・いろいろなことがかかわり合っている
- ・いつかなくなることもあるから大切に(大切に使う)

6つの視点(してん)

生活の中で大切にしたい考え

- ・ひとりひとりを大切に する
- ・きまりを守る
- ・力を合わせて取り組む
- ・やるべきことをしっかり 取り組む

行動する時に大切にしたいこと

こんな考え方ができるといいな

- ・本当かな、他によい方法はないかな?
- ・こうすると、どうなるかな?
- ・つながりや関係はどうなっているかな?

7つの力(ちから)

身に付けたい考え方や行動

- ・自分の気持ちや考えを伝え、相手の気持ちや考えを大切に する
- ・友だちと協力する、協働する
- ・人と物とのつながりを大切に する
- ・いろいろなことにすすんで参加する

学習、生活の中でできるといいな

当校は、みらい学習を中心に全教育活動でSDGsを意識し、ESDに取り組んでいます。創立150周年記念事業を子どもたちの学びとつなぎながら、担任と児童がCS委員さんや地域の皆さんと連携し、創意工夫のある学習を重ねた結果、児童は「自分と人・事象」とのつながりを考え、学習を広げてきました。また、選ぶ楽しさ、選ぶ責任についても話題になることが多い前期(4~9月)でした。

前期の活動を振り返るため、児童アンケートを行いました。「そう思う(4点)・ややそう思う(3点)・あまりそう思わない(2点)・思わない(1点)」4つの選択肢から選ぶ4件法で行いました。また、児童は「ESD学習を通して、成長したこと・できたこと」を記述しました。以下に、過去2年間と今年度の全校平均結果を示します。

「児童の振り返り」紹介

- ・ヤギのことを調べて詳しくなった。世話の仕方が分かった。引き算が難しかったけどがんばったら分かった。(1年生)
- ・消しゴムはなくなるまで使っている。色んな人と遊べるようになった。いい方法がないか考えるようになった。(2年生)
- ・斐太のいいところをたくさん見付けた。これから地域のお宝を大切にしたい。授業に集中できている。(3年生)
- ・自分から自学ができるようになった。友達の【ありがとう・いいね・すごいね】をたくさん見付けた。(4年生)
- ・見通しをもって行動できた。自分で計画を立てて、締め切りまでに実行できるようになってきた。(5年生)
- ・5年生の時より友達と仲良くなることができた。自分で決めたやるべきことをしっかり取り組むことができた。(6年生)

		R7 前期	R6前期	R5前期
6つの視点	1 学習や生活の中で、一人一人のちがいをみとめることができた。	3.71	3.77	3.68
	2 学習や生活の中で、いろいろなことがかかわり合っていることが分かった。	3.65	3.79	3.73
	3 いろいろなものを大切に使った。	3.74	3.80	3.80
	4 友だち一人一人を大切にし、きまりを守った。	3.71	3.80	3.74
	5 友だちと力を合わせて取り組むことの大切さが分かった。	3.82	3.83	3.81
	6 やるべきことに、しっかり取り組むことを大切にしたい。	3.62	3.73	3.69
7つの力	7 学習や生活の中で、他のよい方法がないかを考えている。	3.36	3.39	3.61
	8 学習や生活の中で、見通しをもって、こうするとどうなるかと考えている。	3.37	3.53	3.54
	9 学習や生活の中で、つながりや関係がどうなっているかを考えている。	3.47	3.64	3.59
	10 自分の気持ちや考えを伝え、相手の気持ちや考えを大切にしている。	3.68	3.80	3.81
	11 友だちと協力して活動している。	3.78	3.86	3.91
	12 学習や生活の中で、人と物のつながりを大切にしている。	3.63	3.84	3.69
	13 いろいろなことにすすんで参加している。	3.31	3.63	3.68

児童の今の姿を見取る一つの資料としてご覧ください。「自分で選ぶ」ことを少しずつ始めた前期。指示待ち傾向や前と同じでいい、失敗したくないという傾向がこのアンケートからも感じられます。また、学習や生活全体で「意味付け」や「プロセスの見通し」が弱まっているといえるでしょう。斐太北型イエナプラン教育の推進の必然性を改めて感じています。

後期(10月~)は、全校で家庭学習を自己調整するシステムに取り組んでいます。児童の思考場面を大切に、児童の主体性を引き出すよう工夫しています。12月には、児童が選択できる場面を増やし、児童に委ねる授業を全学年で構想しています。異学年や少人数の「協働の時間」を定期的に設定し、子ども同士の「ありがとう」や「気付き」を可視化する掲示や言葉がけをしてきた成果はすぐには表れないのかもしれませんが、「この学びが社会や未来につながる意味」を共有し、「次にどういふか」で終えるリフレクションを大切に、児童の学びを広げ、つなげ、深めていきます。